

# 事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

## 東京都福祉サービス第三者評価(2021年度) 評価結果報告書

2022年3月8日

社会福祉法人つぼみ会 御中  
LIFE SCHOOL 桐ヶ丘 こどものもり

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1001006	<input type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H1202056	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	③	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H1501067	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑥	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	LIFE SCHOOL 桐ヶ丘 こどものもり			
事業所連絡先	〒	115-0054		
	所在地	東京都北区桐ヶ丘1-7-17		
	TEL	03-5948-8280		
事業所代表者氏名	佐藤 祥之			
契約日	2021年 6月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2021年 11月 1日			
利用者調査結果報告日	2021年 12月 22日			
自己評価の調査票配布日	2021年 10月 8日			
自己評価結果報告日	2021年 12月 22日			
訪問調査日	2021年 12月 27日			
評価合議日	2021年 12月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者調査では、開始時の書面配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。なお事業所と協議のうえ、質問には共通項目に加え、独自の項目も設けて調査を実施した。</li> <li>・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。</li> </ul>			

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述 (関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりを大切にした保育</li> <li>・自分の目や足、頭を使って考え、自分の言葉で思いを伝えられる、子どもの主体性を大切にした保育</li> <li>・子どもの発達に合わせた丁寧な保育を行うための乳児育児担当制保育</li> <li>・多様な人間関係の中で社会性を育む幼児異年齢混合クラス</li> <li>・子どもが生まれ持った可能性を信じて、一人ひとりの「生きる力」に共感する保育</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>誰に対しても親切であり柔らかな雰囲気のもと、子どもと過ごすことができること。子どもたちをひとりの人間としてしっかり理解し、人格を大切に柔軟に受け止められる人。また、発達について学び、自主的、主体的になんでもチャレンジしてみようとする気持ちを持つ人。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育士は子どもにとって身近な手本であり、人が人をかえして生きていることを重んじてほしい。基本的な生活習慣を子どもとともに実践していき、ともに生活することを大切にしてい。保育能力だけでなくそれぞれの個性や人格に誇りを持ちながら大人子どもではなく人と人との関わりを大事にしていくことを考えていくことに期待したい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯106(在籍児童数124)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	124
利用者家族総数(世帯)	106
共通評価項目による調査対象者数	106
共通評価項目による調査の有効回答者数	49
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	46.2

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」24.5%・「満足」46.9%の計71.4%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「急な残業等への配慮」「プライバシー保護」など全17問中10問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「施設的环境がいつもきれいにされており、電子化された連絡帳がとても便利で、毎日、園での子どもの様子が保育者のコメントでわかりやすく伝えられている」「子どもたちを尊重しのびのびと生活させており、持ち物が少なく親の負担が少ない」「先生方が子どもに寄り添った保育をしてくれており、発達や日々の育児相談等も気軽に乘ってくれるので、安心感・信頼感がある」「園庭・テラス・部屋遊び・COE等、毎日違った場所で過ごさせてもらって、子どもが今日はなんだろうと楽しみにしている。園長をはじめ、担任の先生・その他のクラスの先生方がとてもいい方ばかりで、預けていて本当に安心する」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、日常の保育内容や行事、子どもの様子の報告・発信、保護者の負担軽減に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	43	6	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が87.8%、「どちらともいえない」が12.2%となっている。自由意見には、「わらべ歌を覚えて下の子どもにやってくれている」「月齢の大きな友達の名ををしたりして、学びが多い様子だ」の2件が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	12	1	1
「はい」が72.9%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が2.1%となっている。自由意見は4件で、「定期的に新しい玩具を採り入れてくれ、楽しんでいるようだ」「雨が降った次の日の参観日、園庭のぬかるんだ地面を素足で走り回るわが子を見つけ、家では普段なかなか手足を洗ったり泥汚れを落としたりすることが手間でできないが、楽しそうにしていて貴重な体験をさせてもらっていると、ひたすら感謝だった」などのほか、活動内容のさらなる充実を望む声も見られる。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	4	0	1
「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。自由意見には、「よく相談に乗ってくれ、画像で相談することもある」「メニューが豊富で食の経験も豊かになっていると思う」「子どもの発達に合わせた食事となるよう、栄養士が面談してくれた」「おいしいから早く食べたいと、登園の段階で子どもに言われる」の4件であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	24	13	9	3
「はい」が52.2%、「どちらともいえない」が28.3%、「いいえ」が19.6%となっている。 自由意見は17件で、「園庭がとても広く、自然の緑や遊具がたくさんある」「園庭が広く、しっかり遊べる」「園庭は木がたくさん植えてあり、日当たりもよく、気持ちよさそうだ」「園庭で自然に触れられるところがよいと思う」のほか、戸外活動等のさらなる充実を望む声や、その一因ともなっているコロナ禍の影響に言及する声などが見られた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	41	0	2	6
「はい」が95.3%、「いいえ」が4.7%となっている。 自由意見には、「区に掛け合って融通を利かせてくれたおかげでかなり助かった」「20時15分まで延長保育があり、大変助かっている」「アプリで延長を申し込めて便利だ」「本当にいつも助かっている」の4件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	36	10	3	0
「はい」が73.5%、「どちらともいえない」が20.4%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は7件で、「玄関・出入口の鍵が番号入力式で2か所設置されているので安心できる」「ICカードによる入館確認がある」のほか、保育中の安全管理や感染症対策、外部侵入対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	4	3	2
「はい」が85.1%、「どちらともいえない」が8.5%、「いいえ」が6.4%となっている。 自由意見は5件で、「保育参観の日程を自分で決められるのはありがたい」「コロナ禍のイベントごと中止が続いていたが、何とか園側で行うことができないかと思ってくれていることが、感染対策の工夫や徹底ぶりから伝わってきてありがたい」のほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮等について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	40	7	2	0
「はい」が81.6%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が4.1%となっている。 自由意見は4件で、「連絡帳や送迎の際、よく話してくれる」「子どものことをしっかりと見てくれ、日々の生活で何を好んでやっていたか、内面まで観察・報告してくれている」のほか、日頃の子どもの様子などの報告とコミュニケーション機会の確保について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	43	4	2	0
「はい」が87.8%、「どちらともいえない」が8.2%、「いいえ」が4.1%となっている。 自由意見は4件で、各室内の清掃・整理整頓や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	39	8	2	0
「はい」が79.6%、「どちらともいえない」が16.3%、「いいえ」が4.1%となっている。 自由意見は5件で、職員の接遇や服装・身だしなみ等について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	42	6	1	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が12.2%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は3件で、「流行している病気の話や体調の相談をさせてもらっている」「ケガをした時、速やかに病院に連れて行ってくれた」のほか、ケガ時の保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	5	0	11
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が13.2%となっている。 自由意見には、「まだ低年齢のため未経験だ」「まだそこまでの月齢ではないのでわからない」の2件があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	8	0	1
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見には、「先生方が業務的ではなく、個人に寄り添った保育を行っている」の1件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	4	1	3
「はい」が89.1%、「どちらともいえない」が8.7%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	38	6	5	0
「はい」が77.6%、「どちらともいえない」が12.2%、「いいえ」が10.2%となっている。 自由意見は5件で、「離乳食の話をよく相談させてもらっている」のほか、子どもの成長発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる検討を望む声寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	9	1	8
「はい」が75.6%、「どちらともいえない」が22.0%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は3件で、「質問や意見に早急に対応してくれ、即時に解決できない場合はいつまでに、ということを伝えてくれる」「不満はない」のほか、不満・要望等に対する対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	22	4	7	16
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が12.1%、「いいえ」が21.2%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

## I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		<input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		<input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		<input type="radio"/> 非該当
	カテゴリー1の講評	
	<p>法人が大事にする保育の考え方や特色が伝わるよう、職員や保護者への周知に努めている</p> <p>保育理念として「自分の目で見て、自分の足で確かめ、自分の頭で考え、自分の言葉で意志を伝えられる、世界のどこにいても豊かに生きることができる人を育てる」を掲げ、入職前の説明や日常の保育を通して職員に周知を図るほか、園内の会議や法人内研修、人事考課等を通して理解が深まるようにしている。保護者に向けては、パンフレットや重要事項説明書に保育理念を記載し、見学時や入園前の説明会等で年齢ごとに大事にしている保育の考え方や特色も含めて説明するとともに、保育参観やクラス便り、掲示物等を通して、より理解を得るよう努めている。</p> <p>園の課題や地域性に鑑み、より子育て世帯が利用しやすい園となるよう取り組んでいる</p> <p>主として園長が園の中・長期計画や年度の事業計画の策定を進める中で、園経営でのさまざまな課題や園の目指す方向性、重点課題を明確にしており、各計画の中で掲げる人材育成や保育の充実等の進捗状況を振り返りながら、より利用者や地域の子育て世帯に貢献する園となるよう努めている。また外国籍の園児が多い地域性に鑑み、専門の非営利活動法人から宗教に配慮した給食への認証を受けているほか、和訳機等を活用しながら園からの伝達事項の説明に努めるなど、組織内で協働しながら、地域の子育て世帯がより利用しやすい園となるよう取り組んでいる。</p> <p>各種会議で重要な案件の検討・決定がなされ、決定事項が関係者に伝えられている</p> <p>月1回各クラスから1名職員が参加する職員会議が開催され、園児のケースや行事内容の検討、園長からの伝達などが行われている。また日常の園児に関する事項等はクラス会議で検討され、園長・主任・クラス担当職員等で情報共有や方向性の確認がされている。園で決められない案件は法人の運営部門に相談したうえ、必要に応じて理事長や法人の園長会、専門部会で検討されている。保護者への伝達について、園に関する重要事項は入園前の説明や懇談会等で説明するほか、日常的なお知らせはシステムでの発信や文書の配付・掲示、口頭での説明を行っている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(2-2)		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
実践的な計画策定に取り組んでいる			
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
カテゴリ2の講評			
<p>日常的なやり取りを中心に、多様な機会の中で保護者や職員の意向・意見を把握している</p> <p>保護者からの意向は、送迎時の口頭でのやり取りで受け付けるほか、意見箱を設置して口頭以外での意見を収集しやすい環境も整えており、「スポーツフェスティバル」や保育参観等の行事後には保護者へのアンケートを実施し、意見や希望などを把握している。また職員についても日常的な会話の中で意向や意見を把握しており、事業計画策定の際に園長が策定した案をもとに意見を収集したり、人事考課制度の中で行う年3回の面談の際にも園運営や保育等に対する意見について確認するなど、さまざまな場面を通して職員の意向を把握するよう努めている。</p> <p>園が策定する各計画の中で、園の重点目標や取り組むべき事項を明示している</p> <p>園の中・長期計画として人材育成や保育の充実、整備面を中心とした重点課題について、5か年計画を策定している。園長の振り返りにより、年度の達成状況に応じた各項目の新たな計画と実行に向けた取組が考えられ、翌年度以降の園運営に活かされている。年度計画は事業計画をもととした指導計画や行事計画等の各計画が策定され、年度単位で取り組む事項がまとめられている。ただ中・長期計画で掲げる計画内容が事業計画へ反映されていない状況も見られるため、各計画の整合性を図りながら、より明確な計画策定と着実な実行に向けた取組に期待したい。</p> <p>計画達成に向けたプロセスを明示し、進捗確認を踏まえて着実な実行につなげている</p> <p>行事等の開催にあたっては、行事リーダーから事前にテーマや内容、職員の役割等を記載した行事計画が主任・園長に提出されており、承認された計画をもとに行事リーダーが中心となって進めることとなっている。各職員の役割とやるべき内容の締め切り日は役割分担表に明示され、進捗状況は職員会議や日常の声かけで確認しながら、必要に応じて計画の修正を図っている。日常の運営や行事等に係る費用は法人作成の予算で計上されており、園長が月次で予算の執行状況を確認する中で、新たな計画立案や修正等が必要な際に予算申請する仕組みとなっている。</p>			

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>                     法人が大事にする保育の徹底を図るため、多様な研修等を活用した職員育成を進めている                      法人が大事にする子どもの主体性を重んじる保育を徹底するため、入職する職員に対して子どもの捉え方や接し方、言葉遣い等を周知するとともに、日常の保育や法人が開催する研修を通して意識の向上を図り、より子どもが自分自身を出しやすい環境となるよう職員の育成を進めている。また法人の職員として求める仕事に臨む姿勢や日常の挨拶、「報・連・相」等についても、就業規則の説明や法人研修、職員会議等を通して浸透を図るほか、人事考課の社会性や協調性等の項目でも定期的に確認する機会を設けるなど、職員が意識を継続できるように工夫している。                 </p> <p>                     保護者への苦情解決制度の周知や、アンケート等を活用した意見の収集にも努めている                      苦情解決制度は重要事項説明書に掲載し、入園前の説明会で説明したうえで、保護者から同意書にて同意を得ている。また意見箱の設置に加え、主な保護者参加の行事の際にはアンケートを実施するなど、保護者が意見を表明しやすい環境も整えている。虐待防止に向け、職員の気になる言動や行動があった際はそのつど確認することとし、「ストレスチェックシート」をもとに職員の心の健康も把握しつつ、不適切な関わりの防止に努めている。また虐待発見のポイントや支援方法が整理されており、連絡経路等も職員で共有し、対応できるようにしている。                 </p> <p>                     保育の特色を活かした地域支援を行い、地域の子育て世帯が交流できるようにしている                      月に1回程度(コロナ禍では可能な限り)、子育て支援の活動を実施しており、わらべうた遊びを通して親子が遊べる場を提供するほか、園庭開放や身長・体重測定も随時実施し、子育て世帯の交流や相談に応じている。地域のネットワークについては、地域活動をする団体の代表者が集まる「桐ヶ丘地区地域円卓会議(地域のきずな推進プロジェクト)」に園長が参画しており、地域の情報を共有するとともに、福祉の各業種の情報を収集している。また北区開催の「私立保育園理事長園長会」に参加し、行政の施策や地域の情報等も把握できるようにしている。                 </p>		

カテゴリ4			
4	リスクマネジメント		
	サブカテゴリ1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
	●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
	●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリ4の講評			
<p>園の事業継続に関するリスクを踏まえ、必要な対策とその検討が進められている</p> <p>周囲が空き地であり、また洪水ハザードマップで浸水が想定される地域でないことも認識したうえで、園の継続的な運営のリスクとして園児の充足率を念頭に置いて運営を進めている。現状は0歳児以外は定員に満たない充足率となっており、また地域的に急速に園児が増える見込みのない地域で、かつ定員が208名と多い園であることから、入園希望のきっかけとなる子育て支援のチラシを近隣の図書館や児童館に置かせてもらうなど、外部への対応に取り組むとともに、より選んでもらえる保育園となるよう保育の充実やそのための職員育成に取り組んでいる。</p> <p>園児の安全面の確保のため、緊急時の訓練や講習等により職員の意識の向上を図っている</p> <p>防災訓練は日常の保育中に加え、年1回、システムを活用した引き取り訓練等も実施している。またAEDを園内2か所に設置し、職員は救命講習を受講するなど、緊急時の安全確保に向けた知識と技術の習得に努めている。保育中の事故やヒヤリハットは事故防止委員会で検証・分析され、以後の事故防止につなげるよう職員で共有を図っている。緊急時に備え、新型コロナウイルスに関するBCPや非常時のマニュアル等が作成されているが、リスク項目やプロセスの精査、周知方法等により職員の意識の向上も見込まれるため、さらなる活用の工夫も期待したい。</p> <p>関係者に対して、適切な情報管理の徹底と個人情報の保護への理解に努めている</p> <p>「個人情報の保護の取り扱い」の中で利用者の個人情報の使用範囲や注意点等を明示し、職員に伝えるほか、個人情報保護の誓約書の提出や就業規則の説明、職員会議での注意喚起等を通して個人情報保護の意識の徹底を図っている。PCはパスワードやアクセス権の設定のもと施錠管理をするほか、園児や保護者の情報が記載された書面等も書庫での施錠管理をするなど、適切な情報管理にも配慮している。保護者には重要事項説明書をもとに個人情報保護の内容を入園前に説明して承諾を得るなど、園児の個人情報保護への理解に努めている。</p>			

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1 (5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>3/3</b>
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評		
法人の理念や保育に賛同する人材の確保に努め、研修等による育成にも取り組んでいる 養成校への求人や就職フェアの参加、ホームページの活用など、多様な方法で人材確保に取り組んでいる。また法人の理念や大事にする子ども主体の保育・育児担当制・異年齢保育のほか、職員により力を発揮してもらうために導入している定時出退社制等について説明をし、考え方や制度に賛同してくれる職員の確保に努めている。法人の目指す保育実践において講師を招いた研修を行うほか、全職員が参加可能な自由選択研修、職位・職種・経験年数に合わせた個別研修を法人で実施する中で、保育の充実とともに職員のキャリア形成を図っている。 面談や法人内外の各種研鑽の機会を通じて、職員の意識や専門性の向上に努めている 年3回、人事評価制度の中で園長が職員と面談し、意向や目標設定、評価項目の達成状況、課題等を共有している。職員から把握した情報や経営層の判断も踏まえ、法人内研修や外部講師の活用、外部研修への派遣等による職員の研鑽の機会を設け、より一人ひとりの意識の向上や専門性の習得が図れるよう努めている。会議等では保育の考え方の伝達、振り返り等も行われているが、日常的な保育・支援面や研修報告の共有の方法には工夫の余地もあり、お互いの保育を研究し合い園全体の質の向上につなげる工夫にも期待が寄せられる。 定時出退勤制度等の導入による職員の働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる 定時出退勤制度の導入や取得しやすい有給休暇の活用のほか、週1回、マッサージを受けられる機会等も設けており、職員が勤務時間以外の時間を効率よく使えるよう、またリフレッシュして仕事に臨めるような職場環境づくりを進めている。人事考課制度では、職員の課題や目標を明確にする中で意欲的に仕事に臨めるようにするのに加え、結果が賞与や昇給等に反映される仕組みとなっており、働きがいの向上の一役を担っている。またワークショップによる園庭改築の機会も設けるなど、より職員が職場への安心感や誇りをもって働けるよう取り組んでいる。		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>法人として一人ひとりの子どもの主体性を大切にすることを掲げ、乳児には育児担当制により安心した環境の中で一人ひとりの子どもの発達に応じた保育を、3歳以上児には異年齢保育により子ども同士でもに育ち合うことを支援する保育を進めている。また「課業」により子どもの発達段階に応じた必要な経験ができるよう、わらべうた等を活用した保育も行っている。この保育の浸透に向け、法人研修と、講師による専門的な研修や園内での指導など、さまざまな機会を通して行っているが、開園から数年経過する中で、職員個人の考えによる保育や一斉保育のような考え方が一部見られたこともあり、大事にする保育の考え方をより浸透させる機会と捉え、乳児はより安心できる環境となるよう手順の統一を、また幼児にも「課業」の内容や採り入れ方等について、職員とのやり取りや会議等を通して働きかけを行った。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>乳児では食事や着脱等の具体的な内容の共通認識を持つことができ、幼児では職員の「課業」に取り組む姿とともに子どもの変化も見られた。今後は手順を大事にしながらも、子ども主体であることの重要性のさらなる浸透や「課業」をさらに増やすことでのさらなる保育の充実を図ることとしている。</p> <p>また法人として掲げる子どもを主体とした保育の重要性を園長も理解しており、中・長期計画の中でも職員の育成と保育の充実を掲げ、年度の達成度を図りながら、より保育の浸透を図るよう進めている。保育の浸透にあたっては、法人研修や師事する保育の専門家による年3～4回程度の園訪問、日常の保育を見たうえでの指導などを通し、育児担当制・異年齢保育・「課業」による子どもへの変化や見通し等がわかるよう説明するとともに、人事考課の際の職員面談や会議での意見交換などで状況を確認しながら、さらなる保育の質の向上に向け取り組んでいる。</p> <p>ただ、保育実践の発表や共有等の場を持っていない状況もあり、組織内での興味や実践に取り組めるような場の設定、保育を広めるリーダー層の職員の育成など、次なる展開を課題とし、その試行錯誤や検討が進められている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保育の広がりや子どもの安全面への配慮に加え、職員の協同での取組という視点のもと、第一歩として園庭改築をテーマに、ワークショップ形式で取り組んでいる。園庭改築にあたっては、専門の外部業者にも委託し、子どもが思いきり遊べる環境、職員が注意しなくても安全に遊べるような環境、自然が目にとまるような環境となるよう専門家の意見も聞きつつ職員間で意見を交換し、また見学した他園の園庭も参考としながら、新たな園庭の姿を作り上げている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

実際の改築にあたっては職人にも入ってもらい、安全面に配慮して築山に段差をつけたり、ブランコやテーブルを自分たちで作成するなど、想定した園庭に近づけるよう進めたうえ、現在は、子どもが好きな遊びを思いきり遊べる園庭、自然とふれ合える園庭となっている。この取組が協同の第一歩として、ワークショップに参加した職員はさまざまな意見交換や園庭の実際の改築、遊具の創作等のプロセスを経たことが、達成感ややりがいにつながっており、また園としても安全面の確保のプロセスや保育の広がりを検討する機会ともなった点でも、園の組織運営や保育の質の向上を図るうえで一つの参考モデルとなっている。また保育面の充実や職員の育成は中・長期的な計画としても掲げられている事項で、園のさらなる質の向上に向け、法人も園の現状から職員の協同が必要と捉え、園庭改築を推進したことは園の課題や状況に鑑みた対応と考えられる。

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもたちの成長・発達や家庭の状況を把握し、さまざまに記録している 入園時に把握した子どもの心身の発達や生活の状況、保護者の就労状況等の情報については、変更があれば随時に更新・記録をしている。また子どもの体格的な成長は、身体測定を毎月行って記録し、結果を保護者に伝えている。心身の発達は、月齢に応じた発達の主な表れに関するリストを用いて確認するほか、発達評価だけでは表しきれない個々の成長や課題、健康等の子どもの姿を児童票に記述している。保護者や家庭の状況は、日々の対話や連絡アプリのほか、個人面談などを通じて把握している。		
全体的な計画をもとにした保育の計画や「課業案」を策定し、実践につなげている 保育の年間指導計画は、全体的な計画をもとに年齢別の年間を4期に分けて策定し、月間・週間の計画に展開させ、実践する仕組みとなっている。周期ごとに行う各計画の評価反省は、子どもたちの伸長点や展望及び課題の視点から行い、内容を次期の計画に反映させることとしている。「課業」と呼ばれる、子ども自身がすでに身に付けている知識をより正確なものにし、整理するための知的活動を採り入れており、テーマとする領域と子どもの課題、環境構成などを、「課業案」において事前明らかにしたうえで実践に展開するよう努めている。		
年齢や発達に応じた個人別の指導計画を策定するほか、保護者に保育内容を伝えている 集団としての計画だけでなく、2歳児までと、特別な配慮を必要とする子どもに対しては、個人別の指導計画も作成しており、個々の発達や特性に応じた援助につなげている。保育計画や保育内容はさまざまな方法で保護者に伝えている。懇談会では、子どもの姿や育ちの見通しに関する資料を作成して配付するほか、個人面談では子どもの伸長点・課題点について伝え、保護者との共通認識を持てるようにしている。その他、園・クラス便りを発行し、発達や遊びの説明や保育で大切にしていることを伝え、今年度は保育参観を再開している。		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
○あり ●なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p><b>子どもの羞恥心の芽生えへの配慮に努めている</b></p> <p>子どもの羞恥心の芽生えへの配慮として、着替えや身体測定の際には、カーテンなどを閉めて外部からの視線を遮るほか、上下を順に着替えるよう子どもに伝えている。おむつ替えは他から見えない場所で行うこととし、2歳児が利用するトイレは個室ではなく、便座の周りに視界を遮る衝立が設けられており、大人の見守りとプライバシーの保護を両立できる構造となっている。また幼児のトイレには個室が用意されている。テラスには境界よげが施されており、水遊びの際にも、園が面する道路からは子どもの様子が見られないようになっている。</p> <p><b>子ども一人ひとりの思いに寄り添った保育の実践に向け、さまざまに取り組んでいる</b></p> <p>子どもたちが一斉に行動する活動や関わり方は避けるよう心がけており、遊んでいる子どもに積極的に問いかけることにより、子どもたち自身の発想を言葉にできるよう促している。保育室には多様な玩具が設置され、自由に遊びを選べる環境づくりに努めているほか、板や台などさまざまなものに見立てられるものを置いて、子どもたちの自由な発想のもと遊びを展開できるようにしている。また、保護者とは日々連絡帳のやり取りや送迎時の会話等を通じて、各家庭の生活習慣等の把握に努め、個々に応じて配慮できるよう取り組んでいる。</p> <p><b>虐待の早期発見に向けた視点をまとめた規程集を作成している</b></p> <p>虐待の早期発見に向けたポイント等を、法人共通の規程である「虐待防止や対応に関する実施要項」にまとめている。子どもの生活態度や表情の変化、着脱時など観察時のチェックポイントを一覧化しているほか、保護者の子どもへの関わり方や生活の様子など、虐待の早期発見に向けた視点を掲載している。また、市町村や児童相談所への通報手順や、写真による記録の残し方も定めている。これら規程集を活用し、虐待に関する勉強会の開催や外部研修への参加など、育児困難家庭への理解を深める組織全体での取組に期待したい。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しに当たり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
法人共通のマニュアルや公的なガイドライン等を活用し、業務内容の標準化に努めている 感染症が発生した場合の対応や関係機関への連絡などを定めた「新型コロナウイルスBCPモデル」や「虐待防止や対応に関する実施要項」といった法人共通の手順書を備えているほか、園のしおりに記載されている内容を提供するサービスの基本的な考え方としている。また、国や自治体で作成している各種ガイドラインや通知などを活用し、業務内容の標準化に努めている。窒息時の対応などをフローチャートにまとめるほか、救急車を要請する際のやり取りを台本形式にし、保育室のバインダーに設置していつでも利用できるようにするなどの工夫も行われている。 職員や保護者の意見等を参考とし、よりよいサービス提供に向けて取り組んでいる 薬の預かりや熱性痙攣への対応手順などを会議の場で確認し、職員間で統一できるよう努めている。月に一度行われる事故発生防止委員会では、ヒヤリハット事例や事故情報の共有・検討のほか、散歩で行く予定の公園の危険箇所を地図に起こすなどの取組により、新たな事故の発生に対策するとともに安全意識の向上を図っている。法人共通の手順書の改定は本部が行い、園の職員からの提案は園長を通じて本部に伝えられ、検討されることとなっている。保護者が参加する行事の後にはアンケートを実施し、次回よりよい行事の実施に向けての参考としている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		35 / 35
サブカテゴリ4		
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		
		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
<p>子どもの発達状況を踏まえた環境構成の工夫に努めている</p> <p>心身の発達や興味・関心などの子どもの状況はクラスの担任間で伝え合うよう心がけており、それらを踏まえた環境構成の工夫に努めている。子どもの四肢の発達状況に応じて、0歳児では、大型遊具をソフトマットから肋木に変更するほか、各部屋の玩具やコーナーは子どもの目と手の協応、子ども同士の関わり方などの発達を踏まえた内容の検討・変更をしている。また子どもが主体的に遊びを選び、子ども自身で遊びをしまふことができるような玩具の提示位置や種類・量についても配慮している。</p> <p>異年齢保育によって年齢相互の育ちが促され、一人ひとりの特性への配慮に努めている</p> <p>3歳以上児では異年齢保育が行われており、生活と遊びをともにする中で、互いに刺激し合い、それぞれの育ちが促されている。年下児は年上児のまねをしながら、遊びを獲得したり、所作を身に付けたりしている。年上児は自分が獲得してきたことを年下児に教えることで、伝え方や相手の状況を踏まえることを学ぶほか、自信や自覚が育まれている。特別な配慮を必要とする子どもへの対応では、専門家による巡回相談時に助言を受けるほか、保育者間や保護者との情報共有に努めるなど連携を図ることで、個々の特性に配慮した援助につなげている。</p> <p>子どもたちが自分たちで解決する体験ができるように、保育者は見守りに努めている</p> <p>子どもたちのトラブルへの対応では、子どもたちなりの解決や自分たちで解決する体験ができるよう、保育者は見守りに努めている。ただ見守るだけではなく、社会性や秩序の大切さを子どもに伝えることが大人の役割と考えており、遊びを邪魔しない・取らないなどの約束ごとと、傷つけない・部屋を走らないなどの秩序を、日頃から子どもたちに伝えている。そのうえで、遊びを通じて自分の思いがあるように相手にも気持ちがあることを子どもたちが知り、伝え方や関わり方を体験から学べるように見守り、時には話題の整理・代弁・仲介などの援助をしている。</p>		

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には子どもの様子を把握し、降園時には保護者に子どもの様子を伝えている</p> <p>登園時には、受け入れ担当者が視診を行っており、子どもの顔色・機嫌・熱・目に見える範囲の傷の有無などについて確認するとともに、保護者からは家庭での様子を聞き取っている。視診時に把握した情報は、関係職員間で口頭伝達するほか、「申し送りボード」を活用して職員間の共有につなげている。2歳児までは連絡アプリを使用しており、保護者の入力による睡眠・食事・排せつなど生活面の情報を得ている。降園時にはできる限り子ども一人ひとりのエピソードを伝えられるよう心がけるほか、幼児については活動報告を掲示している。</p> <p>育児担当制や家庭との連携のもと、子どもの意欲を踏まえた発達援助に努めている</p> <p>排せつ・睡眠・食事などの生活面の援助については、特定の職員が中心となって行う育児担当制を採り入れており、子どもの発達状況や意欲の状況・変化を踏まえて、細やかに援助するよう努めている。排せつの援助は、子どもの意欲や排尿間隔、子ども自身が尿意を覚えて保育者に伝える様子を踏まえるほか、保護者とも状況を共有しながら、無理のないペースで進めている。着脱についても一緒に言いながら手順を知らせつつ、自分で行う意思・意欲が見られる場合には、その気持ちを尊重して見守り、さりげなく援助するよう心がけている。</p> <p>生活習慣の定着に向けた援助に努め、子どもの状況によって休息がとれるようにしている</p> <p>自分が使ったものをしまう習慣の定着に向けて、保育者は次の遊びに移る前のタイミングを捉えて、声かけや問いかけを行うようにするほか、手洗いについては、清潔に洗うためのプロセスが多く丁寧な援助が必要になることから、できる限り一対一の援助を行い、留意点や手洗いの意味などについても伝えるようにしている。休息は子どもの状況に応じて取れるよう配慮しており、午睡では子ども自身の入眠を大切にしており、寝る場所を固定したり、食事から午睡への一定のリズムを保つなどの配慮に努めている。また睡眠時にはSIDS対策を講じている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが遊び込めるような環境構成の工夫に努めている</p> <p>保育室内の環境は、子どもの心身の発達状況のほか、遊びの特性や遊び同士の親和性を踏まえて、コーナーの配置や広さを検討している。ままごとコーナーやお世話遊びは隣に配置して、遊びの展開を促したり、積み木などの構造の遊びについては、最低2面の壁が確保できる場所を選び、音への配慮として必ずカーペットを敷くなどの工夫がなされている。また玩具は、子どもたちが玩具や遊びを自由に選ぶことができるように提示するほか、種類や量は、子どもが主体的に選び遊んだ後、元に戻すことができる程度とするなどの配慮にも努めている。</p> <p>子どもが自発的に取り組み、言葉の感覚を身につけられるよう配慮している</p> <p>法人の保育の基盤となっている「課業(事象を認知するための知的活動)」を実施する際や、食育活動などは、みんなで一斉に取り組むのではなく、興味ある子どもたちの自発的な参加を大切にしており、保育者は子どもたちの体験の機会が失われないよう、無理強いとならないよう配慮しつつ、声かけを行うようにしている。子どもが言葉の感覚を身につけられるよう、担当制による生活面への援助や遊びの中で言葉がけでは、理由や状況を言葉で伝えるよう心がけており、幼児の「課業」では、子どもたちとの言葉のやり取りの機会が設けられている。</p> <p>園庭は五感を刺激する環境となっており、テラスでも身体を使う活動が行われている</p> <p>園庭は子どもたちの五感を刺激する環境となっている。さまざまな樹木が植えられ、新緑・紅葉・落葉など、時期によって姿を変える木々が、子どもたちに季節の移ろいを知らせている。木々だけではなく、虫や霜柱など、子どもたちが自然の不思議を感じられる環境となっている。その他、中腹にトンネルが設けられた築山や、職員の手作りのベンチやブランコ、砂場などが設けられており、身体を使って遊んだり、見立て遊びに興じたりしている。また人工芝が敷設されたテラスでは、ボール遊び・平均台・縄跳びやプールなどの水遊びを楽しんでいる。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は、日頃の子どもの興味関心や生活面の取組を踏まえて実施している</p> <p>行事は、行事のために活動を計画するのではなく、日頃の子どもの興味関心のほか楽しんでいること、生活面の取組の延長上にあるものと捉えている。幼児を対象として行う「親子スポーツフェスティバル」は、日頃身体を動かす多様な活動内容を親子で楽しんでおり、保護者に子どもの成長を伝える機会にもなっている。季節の伝承行事・食育活動・「COE(リズム・バランス・反応・認知・操作能力を養い、体力・知力・社会性を育む運動プログラム)」なども、日頃の活動からのつながりを大切にしており、導入やその後の活動の継続への配慮に努めている。</p> <p>季節や文化を感じる行事は制作・遊び・食事などの活動を関連づけて行っている</p> <p>七夕や節分などの季節の行事では、制作・遊び・食事などの活動を関連づけて行っている。わらべうたを通じて季節や行事の歌に親しんだり、幼児では「課業」の一つの領域である美術の中で、行事や季節の象徴物をテーマにした制作に取り組んだりしている。七夕では、保護者にも協力を呼びかけて、短冊に願いごとを記し笹に吊るして風習を体験している。行事食として、七夕では夜空をイメージしたそうめんやゼリー、年明けには七草粥などが提供されており、誕生日についてはクラスの中でお祝いし、パースデーカードや歌をプレゼントしている。</p> <p>ニジマスの掴み取りや「COE」など、子どもの視野を広げる体験・活動が行われている</p> <p>ニジマスの掴み取りは、生きている魚を触ることで、感触から魚の生態の一部を知ること、調理担当者が捌く様子を幼児が観察し、食事とさせていただくことを通じて、命の大切さに触れることなどを活動のねらいに定めて取り組んでおり、活動が掴み取りの遊びになってしまうよう、事前に栄養士による、魚に関する話を子どもにしている。その他、幼児を中心として「ハッピータイム(コミュニケーション活動)」や「COE」といった外部講師を招いて行う活動やフィンガーペインティングなど、子どもの視野を広げる体験・活動がさまざまに行われている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもたちの安定した一日の保障と細やかな援助を心がけている</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちの安定した生活リズムの保障に向け、一日を通じて子どものペースで過ごせるような「流れる日課」を大切にしている。また2歳児のクラスまでは、生活面の援助を行う職員と子どもの組み合わせを固定する育児担当制を採り入れることで、子どもの状況の微細な変化を捉えた細やかな援助につなげられるよう努めている。担当の職員が休暇を取る時にも、あらかじめ決めている副担当が援助にあたるなど、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮している。</p> <p>保育時間が長い子どもの健康・情緒や活動のバランスへの配慮に努めている</p> <p>子どもたちが健康的に過ごせるよう、検温や視診などの健康観察をこまめに行うほか、水分補給や休息をとるよう促している。18時以降は全年齢の子どもたちの合同保育になるため、年上児には衝突などの危険を伝え、注意を促している。情緒面に不安がある場合には、抱っこなどのスキンシップや、一対一で対応するなど、子どもが安心できるような関わりを心がけている。子どもたちが飽きることなく過ごせる工夫にも努めており、延長保育時にのみ提供する玩具を用意したり、一日を通じて活動の動と静、室内と戸外などのバランスへの配慮にも努めている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子ども一人ひとりに応じた丁寧な調理やアレルギー・宗教食等への配慮がなされている</p> <p>離乳食会議等で子ども一人ひとりの情報を共有し、献立や食事の準備が行われており、子どもの食欲や体調に応じて配膳の量を調整するなど調理者と保育者で配慮している。離乳食は栄養士の中で担当が決められ、子ども一人ひとりの細やかな対応に反映させており、苦手な食材等は調理方法の工夫も行われている。また食物アレルギーへの提供時に食器にラップをかけて内容を記載し、着座の位置を工夫するなど誤食防止に努めるほか、ハラル認証を受けた宗教食の対応も行うなど、すべての子どもと保護者が安心して食事ができるような配慮がなされている。</p> <p>さまざまな食育活動や経験を通じて、子どもの食への興味が高まるよう工夫している</p> <p>食育としてニジマスの掴み取りに取り組んでおり、活動が掴み取りの遊びになってしまわないよう、事前に栄養士による、魚に関する話が行われており、魚への興味を高めるとともに、命の尊さと大切さや、食はその命をいただくことで自分の栄養となることなどについても伝えている。食事のマナーについては、保育者が子どもたちのそばで適宜声をかけながら、姿勢や口にもものを入れながら話さないことなどについて伝えるようにしている。行事食・郷土料理・世界の料理も採り入れ、行事の由来などについても伝えるなど、文化に触れる機会にもなっている。</p> <p>穏やかで楽しい食事になるように、年齢や状況に合わせた援助に努めている</p> <p>2歳児のクラスまでは、育児担当制のもとで保育者との安定した関係下で食事の援助を行うとともに、いつもと同じ流れで食事ができるため、子どもが落ち着いて食事ができるよう配慮している。3歳以上児では、子どもが準備から関わり、楽しく食事に向かえるようにしており、保育者は見守りながら子どもたちの好き嫌いにも丁寧に寄り添い、必要に応じて援助している。また子どもの喫食状況を保育士と連携を図りながら把握し、次回の参考としたり、子どもの姿をもとに配膳道具等を見直すなど、よりスムーズとなるよう職員間での話し合いも行われている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもたちが自分の身体や健康に関心が持てるよう、さまざまな健康教育を行っている</p> <p>手洗いや歯磨き、うがい等については絵本や紙芝居、イラスト等を用いて意味や大切さを伝えている。保育室の洗面台に手洗いの方法をイラストや写真で掲示し、子どもたちが手を洗う時に意識できるよう工夫するほか、外から帰った時など随時職員が手の洗い方を指導している。歯磨きは春に虫歯予防の日があることや、歯の役割や歯磨き・うがいのタイミングについて話している。また、鼻の構造や役割の話、プライベートゾーンの話などさまざまな健康指導を行い、子どもたちが自分の身体や健康に関心を持てるよう取り組んでいる。</p> <p>保健指導や医療機関との連携により、心身の健康が維持できるよう援助している</p> <p>夏季には人体に含まれている水分量や水の役割を話して熱中症の予防に努め、冬季には新型コロナウイルスやインフルエンザの話をして手洗いの重要性を伝えるなど、時期や季節に応じた保健指導が行われている。避難訓練では、自分の身を自分で守るための行動や姿勢などを標語を用いて教え、命を守るための訓練であることを話している。0歳児は毎月健康診断を行っており、園医が園を訪問することになっている。その際に地域で流行している感染症の情報交換や、子どもの体調等に関する相談を行うなど、連携を図っている。</p> <p>保護者への情報発信に努め、子どもの健康維持に向けた連携を図っている</p> <p>入園時に園のしおりを用いて説明する際、引っ掻きやかみつき、活動中での事故など、集団生活や子どもの発達上起こりうるケガ等について伝えている。また、SIDS(乳幼児突然死症候群)の対策については、入園時に睡眠時のチェックなど園での取組を説明するほか、「慣れ保育」の推奨や厚生労働省のSIDSの注意喚起のポスターを保護者から見える場所に掲示する等の取組を行っている。毎月発行されている保健便りでは、夏バテの予防や足のサイズに合った靴の選び方など、健康に関するコラムを掲載し、保護者に向けて発信している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>家庭の状況等に応じて、柔軟な保護者支援の実施に努めている</p> <p>保護者との個人面談は、期間を設けて希望を募って実施し、園での子どもの様子を伝えるほか、保育園生活における家庭の要望や意向の聞き取りを行っている。家庭の就業状況等に合わせた登園時間の設定を行い、延長保育は子どもが1歳の誕生日を向かえた日から利用できるようになっている。また、18時15分を過ぎて園に残る子どもに対しては補食や軽食の用意も行っている。軽食は栄養価に配慮し、多様な食材を使用した混ぜご飯と汁物が提供され、空腹による不安の軽減と、生活リズムの構築を図っている。</p> <p>保護者懇談会を通じて、保育活動への共通理解形成と家庭との連携を図っている</p> <p>保護者懇談会は年2回の実施を予定しており、今年1回目は昨年度来のコロナ禍により対面での懇談会を控えて、代わりに書面を発行している。子どもたちが遊んでいる玩具や室内環境の紹介、異年齢保育など行っている保育状況の発信のほか、保育目標に対する子どもたちの現状や様子等を伝え、着脱やトイレトレーニングなど、基本的な生活習慣の獲得に関する家庭との連携のお願い等、保護者との共通理解を形成するべく多様な工夫を行っている。</p> <p>園生活の様子を積極的に発信し、保護者に保育活動に参加を促す多様な取組を行っている</p> <p>クラス便りには積極的に写真を掲載し、園庭・室内などさまざまな場面における子どもたちの活動の様子がよりわかりやすく伝わるよう工夫している。日々の子どもの様子等は送迎時の会話や連絡帳のほか、保護者が見える場所に行事等の様子を写真と文章で掲示し、積極的に発信している。「親子スポーツフェスティバル」(運動会)では親子が協力して取り組む競技を種目として設け、感染症に留意して1日あたりの参加人数を決めて保育参観を実施している。また、例年では保育士体験を受け入れるなど、園内の取組を保護者に伝える機会を多様に設けている。</p>		

9 評価項目9		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当	
●あり ○なし		2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当	
評価項目9の講評					
<p>園の資源や避難訓練等の機会を活用し、子どもが地域と関わる機会を設けている</p> <p>避難訓練を行う際には避難場所となっている近隣の公園を利用し、子どもたちが地域環境を認識できるようにするほか、園庭改築の際には中学校から落ち葉を提供してもらったりしている。コロナ禍以前には「親子スポーツフェスティバル」に自治会の人や小中学校の職員を招くほか、園庭を開放して近隣の子育て家庭に利用を呼びかけるなど、地域と交流する機会を多様に設けている。近隣の公園に対して下見を行い、遊具や出入口など危険箇所の確認や、公園までの経路を設定してお散歩マップの作成を進めており、今後の地域活動の充実を目指している。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	職員が協同して目指す園や保育を実践するための組織づくりに取り組んでいる	
内容①	職員の協同に向け、第一歩として職員の中でワークショップ形式で園庭改築に取り組んでいる。子どもが思いきり遊べる園庭や安全に遊べる園庭、自然とふれ合える園庭を目指し、外部の専門家の意見や他園の見学等も参考に、希望した職員の中で意見交換しながら園庭の姿の検討を進めたうえ、職人に入ってもらいつつも、プランコの作成、花の植栽等も含めた園庭改築を自分たちの手で進め、目指す園庭の実現に努めている。この実践の経験も参考に、職員全体で園の質の向上、保育の充実や実践の共有等を協同して取り組めるような組織づくりを進めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	文字や言葉、食事など、多様な国籍の家庭の価値観や生活習慣等に配慮している	
内容②	外国籍の家庭が複数在籍しており、日々の関わりにおいて身振り手振りをを用いて伝達を行う、文章で伝える際には注釈をつける、会話には翻訳機を用いるなど、保護者との連携を円滑にするよう取り組んでいる。また見学者への案内に供するリーフレットにはすべての文字を英語に差し替えたものがあり、外国籍の家庭への配慮に努めている。多様な宗教食への対応として、禁止されている成分が園の食事に含まれておらず、製造における環境・品質・プロセス等、その宗教が求める基準を網羅していることを外部機関の認証を経て確認し、日々の食事を提供している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	細やかな援助や愛着関係を基盤とした園生活を送ることができるよう、2歳児のクラスまでは育児担当制を採り入れている
	内容	保育者との愛着関係のもとで、安定した保育園生活を送ることができるよう、2歳児のクラスまでは、担当する職員が中心となり、食事・排せつ・着替えなどの生活面の援助を行う育児担当制を採り入れている。子ども一人ひとりの生活リズムの流れを大切にしており、家庭での食事や睡眠の時間を踏まえて園生活の日課を考慮したり、保育室内の眠る場所・食べる場所を一定に保つなどの配慮に努めている。また子どもの発達や状況の変化、家庭での様子を把握することによる細やかな援助によって、子どもたちの主体性や自発性の育ちを促している。
2	タイトル	子どもが成長の過程で抱える課題を克服する体験の保障に向けて、保育者は見守り・援助・環境の工夫に努めている
	内容	子どもが成長の過程で抱える課題を克服する体験の機会を奪わないよう、保育者は見守り・援助・環境の工夫に努めている。衣服の着脱や食具の使い方、玩具など共用物の片づけなどの生活習慣の習得・定着に向けた援助では、子どもたちの意欲や体験から身につけてゆく過程を大切にしている。子ども同士のトラブルでは言葉の伝え方や関わり方を学べるよう、子どもたちのやり取りを尊重し、段差や起伏のある園庭での遊びの中から危険を察知する感覚や身体の使い方を身につけられるよう、自発的な活動を見守りつつ、必要に応じた援助を心がけている。
3	タイトル	定時退社制度やICT等の導入による職員の働きやすい職場づくりややる気向上に向けたさまざまな仕組みを整えている
	内容	ICT化の導入により業務の効率化を図ったほか、定時退社制度の導入や職員アンケートでも好意的な意見が見受けられる有給休暇の取得のしやすさ等により、仕事以外の時間を有効的に活用できるようにしている。また週1回マッサージを受けられる機会も設け、職員が常にリフレッシュした状態で仕事に臨めるようにするとともに、より安定的に働けるよう環境づくりに取り組んでいる。評価結果が待遇面につながる人事考課制度の運用、キャリア形成が見通しやすい法人内の多様な研修機会などの環境も整え、職員のやる気の向上と維持にも取り組んでいる。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	体験を通じて子どもたちが認知を得る取組の根拠性をさらに高めて、「課業」と呼ばれる知的活動のさらなる充実を図りたいと考えている
	内容	子どもの成長発達や興味関心を踏まえた保育実践に努めており、子どもたちが体験を通じて多くの学びを得られるよう、文化に触れる取組や食育活動、感性を育む戸外や表現などのさまざまな活動に取り組んでいる。また室内環境においても、子どもの主体性や自発性の育みを意図した、玩具の種類・量・提示方法などの工夫に取り組んでいる。今後は現在実践を進めている体験を通じ、子どもたちが認知を得る取組の根拠性をさらに高めて、法人共通で大切にしている「課業」と呼ばれる知的活動のさらなる充実を図りたいと考えてため、今後に期待が寄せられる。
2	タイトル	園が大切にする保育の価値観や実践について継続的に保護者に発信し、園と保護者との共通理解がさらに深まることに期待したい
	内容	法人の目指す保育・教育のあり方として、子ども一人ひとりを大切にする保育の展開に努め、園にいる時間を一杯遊びに使えるよう取り組んでいる。保育室では使いたい玩具を子ども自身が選んで取り出し、集中して遊び込める環境づくりを図るほか、園庭を改良し、身体を動かす活動やブランコなどの遊具で遊べるようにしている。一方で利用者調査の結果では園の外に出での活動により自然や社会と関わる機会を望む声もあり、園が大切にしていることについて、継続的な情報発信やその工夫などにより、園と保護者との理解がさらに深まることに期待したい。
3	タイトル	園の保育の大切にする思いや方向性を合わせるため、さらなる職員間の情報・認識の共有の機会設定を期待したい
	内容	法人も園も子どもの主体性を大事にする保育を重要視し、その実践として、育児担当制・異年齢保育・「課業」等を進めており、法人研修や保育の専門講師による研修、園での日常の指導など、多様な方法で浸透を図るよう努めている。一方で、園では各種会議が開催されているものの、職員全員で意見を交わす機会が少ないこともあり、園全体で目指す保育に差が出ている課題もあがっている。園で大事にする保育を確認し、協同して進めるためにも、職員全員で保育実践や研修内容を深める機会を設けるなど、さらなる機会設定と内容の浸透への工夫を期待したい。